



赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金・九州」（ボラサポ・九州） 第5回助成決定にあたって

はじめに

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金・九州」（以下、「ボラサポ・九州」）は、昨年12月に短期・中長期プログラムとしては最終回となる第5回助成を公募し、このたび39件、合計8,472万円の助成を決定しましたのでお伝えいたします。

「ボラサポ・九州」は、発災直後の2016年6月に第1回の応募受付を開始し、これまで約2年、5回にわたり266件、合計5億349万円の助成を続けてきました。

被災地では、今なお4万人近い方々が仮設住宅での避難生活を余儀なくされており、引き続きの支援が必要とされています。

「ボラサポ・九州」第5回の助成決定にあたり、2018年3月13日に開催した第5回運営・審査委員会では、助成を決定すると同時に、残される課題に対し今後どのような支援をしていくのかということを協議しました。

1. 第5回応募状況と助成決定状況

(1) 応募状況

第5回の助成公募には、合計71件、1億6,479万円の応募がありました。応募の内訳は次のとおりです。

- ・「短期プログラム」（活動日数14日未満） 7件／265万円
- ・「中長期A部門」（活動日数14日以上30日未満） 6件／540万円
- ・「中長期B部門」（活動日数30日以上） 58件／1億5,674万円

今回は熊本県内の活動団体からの応募が6割を超え、はじめて応募の過半数が地元団体となりました。これまで「ボラサポ・九州」では、助成にあたって、活動を地元団体に引き継ぎ定着化を図るよう促してきました。こうしたこともあり、今回の応募では、外からの支援を引き継いだ地元の団体が、活動を本格化させつつある状況がうかがえました。

また活動内容を見ると、「被災者同士のつながりの再生を支援する活動、コミュニティ再生活動」が31.1%、「サロン活動」が20.6%と合わせて過半数を超えており、被災者同士のつながりづくりから、コミュニティの再構築を図る活動が目立ってきています。

(2) 助成決定状況

第5回運営・審査委員会では、39件、合計8,472万円の助成を決定しました。

なお、第5回応募受付時において、第3回、4回による活動が終了していない団体(2018年2～3月を活動終了時期としている17助成、合計4,317万円)に対しては、活動終了後すみやかに精算・活動報告をすることを条件として助成を行うこととしています。

2. 選考にあたっての考え方

第5回の審査にさきがけ、現地の地域支え合いセンター、中間支援組織、行政などへ現地の状況やニーズのヒアリングを行いました。

現在被災地においては、災害公営住宅の整備が進まず、原則2年間とされている仮設住宅の入居期間を1年間延長する決定がなされたなか、自立再建していく被災者と、仮設住宅にとどまる被災者に分かれる状況が見えてきています。

長引く避難生活のなかで、特に仮設住宅にとどまる方々が、災害公営住宅建設の遅れ等による「住まいに関する不安」とともに、世帯の高齢化や生活困窮等による「心身的な不安」を多く訴えているという調査結果もあります。

そこで、仮設住宅やみなし仮設住宅に入居されている被災者には、仮設住宅のコミュニティを当面の期間、維持できるような日常生活支援や、住民の情報提供・交流の場づくり、見守り活動、サロンなどによる孤立防止の取り組み活動が必要であるという共通理解をもって選考にあたりました。

そのうえで各事業が、「被災地・被災者の現在のニーズに沿った活動かどうか」、「第5回の助成が終了したあとの今後の展望(継続性)がある活動かどうか」、「今後被災した住民が主体となった地域への定着化を意識した活動かどうか」等を重視しながら、審査を進めました。

3. 今後の予定について

「ボラサポ・九州」は、スタートした当初より、「活動が地元団体へ引継がれ、被災した住民主体の活動として定着化すること」を、ひとつの目的として助成を行ってきました。

短期・中長期プログラムとしては第5回が最終となります。

この間実施してきた現地ヒアリングでは、「各地のキーパーソン層に、住民自身による情報提供・交流の場づくりや、見守り活動、サロンの実施などの孤立防止の取り組み等、住民自治の仕組みを育てていくことの機運が高まってきていること」を確認しています。

そして、財源面の支援により、今後各市町村における地域支え合いセンターを中心として、住民自身によるコミュニティ構築活動が喚起される感触を得ています。

この流れを受け、中央共同募金会では平成31年3月までを活動期間とした「ボラサポ・九州」による第5回助成の団体支援と並行して、平成30年度より、熊本県共同募金会と

ともに、1回10万円を上限とする「『ボラサポ・九州』住民支え合い活動助成（住民同士のコミュニティづくりを支える助成）」を、熊本県内19市町村で開始することとしました。

今後、災害公営住宅への入居が本格化する時期には、さらに新たなコミュニティ形成のニーズが高まってくるものと考えられます。

なお、最終回となる第5回助成では、8,472万円を活動団体に助成することができました。残された金額は「住民支え合い活動助成」のかたちで熊本県共同募金会に引継ぎ、より住民に身近な助成金となるよう進化させていきたいと考えています。

さて、審査にあたっては毎回、活動地域の行政や社会福祉協議会、関係する団体のご担当者にも何度も実態確認の連絡をさせていただきました。震災当初の混乱期においても、丁寧に対応いただきましたことに心より感謝申し上げます。

また、これまで「ボラサポ・九州」の助成を受けて、被災地で活動してくださった団体のみなさまに心より感謝申し上げますとともに、今回助成が決定した団体におかれましては、寄付をもとにした貴重な財源による助成であることをご理解いただき、被災地のニーズに沿った有意義な活動を展開されるよう期待します。

最後に、これまで全国各地の個人・企業の皆さまより多くのご寄付をいただいておりますことに深く感謝いたしております（寄付額：543,449,467円／3月29日現在・概算）。今後も「住民支え合い活動助成」のかたちで熊本県内の被災地域で、より住民に身近な助成金として大切に役立たせてまいります。

引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

活動の内容につきましては、引き続きホームページでご報告してまいります。

（中央共同募金会ホームページ：<http://www.akaihane.or.jp/>）

被災地ではまだまだ厳しい状況が続いております。今後とも復興に向けて、ご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金・九州」
運営・審査委員会 委員長 山崎美貴子